からしだね

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南１丁目 35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第 321 号

ホームページアドレス　http://www1.com.ne.jp/~mizumaki

希 望 が 表 明 さ れ る

マヘル神父

皆さん、四旬節の手紙がもうすぐ届くと思います。どうぞご覧になって下さい。

さて、表題の“希望が表明される”とは、この四旬節の時期に読まれる聖書の箇所から示されるように、「命を与える神のエネルギーがほとばしり出ている」という意味です。

たとえばアダムとエバと善悪を知る木、アブラハムとサラの願い、エジプトを出た民への神からの水、若いダビドの祝別、エゼキエルが幻に見た骨の生き返り、これら旧約のテーマは、イエスの福音に対応しています。イエスが荒れ野で悪霊の誘惑を受けたこと、イエスの姿の変容、サマリアの女に生ける水を与えたこと、目の見えない男を癒したこと、そしてラザロの蘇りです。イエスの受難と死には、いつも復活への希望のまなざしがあります。

四旬節は、復活祭のサイクルによる典礼暦で始まります。灰の水曜日は、古い自分を脱ぎ捨ててキリストと共に新しい命に生きることを思い起こさせます。６週間の四旬節を経て聖週間に入ります。聖木曜日の日没から復活の日没にいたる聖なる三日間は、教会年の最も重要な祭りです。

また四旬節の儀式は復活の光のもとに行われるようになりました。初代教会はそれまでの第七の日（安息日）礼拝を、週の初め、イエスの復活の日に行うようになりました。毎日曜日は、“小さな復活祭”のお祝い日でした。四旬節中の日曜日も断食の日ではありませんでした。再び生まれること、ご復活は、現実の出来事であり、今もこれから開かれる未来においてもそうです。

四旬節は顔を曇らせて義務的に自己反省する時ではなく、日頃見過ごしてしまう自分自身を見直す時です。

立ち止まり、振り返り、直視して、耳を傾け、呼吸を整える。期待と希望のうちに私たちを刷新する、力ある神の霊に自分を開く時です。祈りと犠牲と施しを通して神との親しい交わりに励む時です。

四旬節の間、自分の生活、共同体、世界について神の意図がどう表されているかを注視しましょう。

聖書を黙想し、神に心を開いて魂の深みに入ると神の想いが表されてきます。

朗読の手引き・・・・・・・・・２・３面
委員会等報告・・・・・・・・・・・４面
典礼委員会議事録・・・・・・・・・５面
パウロの歩いた道・・・・・・・・・６面
典礼を学ぶつどいより・・・・・・７面
教会学校・・・・・・・・・・・・・７面
おしらせ・今月の聖人・・・・・・８面

朗読の手引き

ミサにおける朗読奉仕の手引き

（豊田神学生によって、2013 年 10 月、ミサ後、小講義が行われました。下記はそのとき使われた資料で、白浜神父様によるものです。朗読担当の方は、十分に、お読みください。）

1ー【心構え】

主イエス・キリストは、「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」（マタイ 18・20）と約束しておられます。まさに、ミサに集まった信者の集会の中に、主イエス・キリストはともにいてくださるのです。

さらに、信者の会衆が集まっているところで神のことば（聖書）を読むことは、その集会の中で「キリストご自身が語られる」ことであると第二バチカン公会議の『典礼憲章』（7）は教えています。そのために、ミサの中で聖書を読む奉仕をすることは、その集会の中で語りかけられるキリストに奉仕することであり、自分の口、自分の声をキリストに使っていただくことになるのです。

＜キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行う＞ことができるよう、心の準備と実践的（技術的）な準備を前もっておこなってから、朗読するように心がけましょう。

2ー【心の準備】

朗読する箇所を読んで、しばらく黙想し、その内容を把握し、味わうに努めましょう。

3ー【実践的な準備】

①「朗読は認可された聖書でおこなう」（『朗読聖書の緒言』14）ことが重要です。現在、日本のカトリック教会がミサの中で朗読することを認可している聖書は、新共同訳『聖書』（日本聖書協会）です。(一文省略)

②「聞き取れる声で、はっきりと、味わえるように読む朗読のあり方が、何より朗読によって神のことばを集会に正しく伝えることになる」（上記「緒言」）と言われています。

そのために主に、以下の様なことに気を付け、実際に声を出して、数回、朗読の準備を行いましょう。できれば、他の人に聞いて貰い、助言を頂くとよいでしょう。（一部漢字等変更）

§ 典礼における各朗読は、1 回限りであり、繰り返されません。初めて聞いて分かるように、一期一会の精神でその朗読に取り組みましょう。

§ そのために、以下の点に留意しましょう。●朗読される書名、朗読後のことばを確認しておく。●声の大きさ、朗読の速さ、ことばの聞き取りやすさ、間など。（一般的に、ゆっく

り、はっきり、味わえるように読む。文章の流れ（内容）に基づき、テンポ・強弱・間を考える。一番うしろの席の人によく聞こえているか？）　●朗読台の高さが自分の背丈にあっているかを確認する。●マイクを使用する場合は、マイクの高さ、向き、音量などを前もって調整しておく。

§ 朗読者も同時に聞き手です。朗読者は、神のことばを宜べ伝える着であると同時に、それを聞く者でもあります。そこで語られるのは、主イエス・キリストご自身であるということを意識し、また、聞き手の立場を考慮しながら朗読をおこないましょう。

§ 朗読前後や朗読中の所作も丁寧におこないましょう。

４－【朗読の奉仕のあり方】

『ローマ・ミサ典礼書の総則』において、次のような説明があります。

「集会祈願が終わると一同は着席する。＜一文省略＞　朗読者は朗読台へ行き、すでにミサ前にそこに置かれている朗読聖書から第１朗読を行い、一同はそれを聞く。終わりに朗読者は「神のみことば」と呼びかけ、一同は「神に感謝」と答える。ここで適当であれば短い沈黙のひとときをとることができる。こうして上記の典礼法規に基づいて、関連する他の点も補足しながら、朗読奉仕のあり方を確認しましょう。

①ミサの前に、朗読聖書を朗読台に準備し、朗読箇所の確認をしておきます。『聖書と典礼』などのパンフレットを手にもって朗読台に向かうことは望ましくありません。

②「会衆の参加するミサの祭儀では、朗読はつねに朗読台から行われる」（『ローマ・ミサ典礼書の総則』58）ことになっています。

③会衆席から朗読台に向かう際、祭壇の前で一礼します。祭壇は、教会の礎（かなめ石）であり、生きた石であられる主イエス・キリストを示すしるしです。その前で一礼し、朗読台に向かうことは、キリストに奉仕して朗読をおこなうことを意味しています。朗読の終わりに、自分の席へ戻る際にも同じように、祭壇に一礼します。

司式司祭への一礼は文化的儀礼に基づくものであり、＜一節省略＞　、司式司祭への一礼は省きます。

④朗読前に告げられる表題は、日本では次のようなっています（『朗読聖書の緒言』121）。

・預言書は、「〇〇〇の預言」・一定の共同体または個人あての手紙は「使徒パウロの〇〇〇への手紙」・書簡は、「使徒〇〇〇の手紙」　　（一節省略）

⑤朗読前に、朗読聖書に一礼する必要はありません。

⑥朗読者が「神のみことば」と呼びかけ、一同は「神に感謝」と答えます

⑦その後、朗読者も朗読聖書に軽く一礼をして神への感謝のしるしを表し、祭壇の前で一礼してから、自分の席に戻ります。

⑧朗読後、聞いた神のみことばを心の中で味わうようにします。

委　員　会　等　報　告　2014 年２月分

２月度小教区委員会　　２月２日

１．前委員会の議事録確認

①年末大掃除・クリスマス飾りつけ
②降誕前夜祭・ミサ後のパーティー
③元旦ミサと祝賀会
④12 月 31 日 23 時～　ホーリーアワー
　１月１日０時～と 10 時～のミサ

２．先月の行事報告（抜粋で記述）

・12 月 22 日(日)　街頭募金
　　グランモール水巻駐車場にて
・12 月 24 日(火)　降誕前夜祭ミサ
　　209 名参加
・12 月 25 日(水)　降誕祭ミサ　75 名
・12 月 31 日(火)　ﾎｰﾘｰｱﾜｰ　18 人参加
・１月１日(水)　０時ミサ　　25 人参加
　　10 時ミサ　105 人参加
　ミサ中成人のお祝い(3 人)
　　シスターの書いた本をプレゼント
・１月 26 日(日)　豊田神学生　送別会

３．議題

①地区集会について
　・新地区委員の選出
　・教会についての意見交換
　・外壁工事のことについて
〈日程〉２月 16 日:芦屋・折尾・高須青葉
　　２月 23 日:梅の木・海老津
　　・吉田・遠賀
　　３月２日:　赤間・中間
②役員改選について
　事務局より候補をあげる
　　新委員長　　浜口学さん
　他の役員については、これから選出していく
③外壁工事について
　・工事箇所
　　聖堂の外壁･屋根･スロープのひび割れ
　　信徒会館横の軒の電気
　・２社より見積を取っている(約 700 万)
　・総会で話し合う

４．各委員会

営繕委員会より
・聖堂内のマイクの調子が悪かったが、修理できなかったので、新しいものを購入
・クリスマス前に電球を交換した
　(交換したら、古いものは仕舞わず、外に出しておいてほしい)

５．その他

・新しい駐車場について
　砂利が道路に出る。アスファルトをはった方がいいのでは→今後検討する
・大掃除について
　掃除内容が簡単になりすぎている→時期を含め、しっかり行う方向で検討

６．これからの活動

３月５日(水)灰の水曜日 9:30・19:30
３月 15 日(土)16 日(日)　黙想会
３月 28 日(金)共同回心式
　　10:00～・19:30～
４月１９日(土)　聖土曜日　19:30～
４月 20 日(日)　復活の主日　10:00～
４月 27 日(日)　納骨堂利用者集会
５月 11 日(日)　信徒総会(予定)
※次回小教区委員会　３月９日(日)

2013年度　第6回　典礼委員会議事録

開催日時：2014年2月8日（土）午後8時　場所：信徒会館

《確認事項》

1．2月16日（日）午後2時　小倉教会　北九州信徒協研修会
　講　師：フランコ・ソットコルノラ神父
　テーマ：「典礼憲章の要点」とミサの意味―深く意識すべきこと―
2．通夜・葬儀用ＣＤＲ作成について
　サンパウロで三谷氏が購入した葬儀用ＣＤをもとに浜口氏がＣＤＲ作成中。
3．3月5日（灰の水曜日）灰の式用の古い枝持参の呼びかけは2月16日より。
　灰の作成は、安永氏。
4．四旬節第1日曜日より、司会は共同祈願に洗礼志願者のための意向を加える。
5．共同回心式：3月28日午前10時、午後7時半　（聖歌は入祭、閉祭）
6．その他
　2～3月の司会当番：都合がつかない場合は早めに連絡のこと。
　2月16日 宗　23日 吉岡　3月2日 浜口　5日 山本（朝）、吉岡（夕）
　9日 俵　16日 宗　23日 柴田　30日 宗

《審議事項》

1．十字架の道行き：四旬節第1日曜日 9時から始める。
2．聖週間（A年）の典礼について（司会は教会備品パンフレットを熟読のこと）
　・受難（枝の主日）の主日は、階下より枝の行列をもって始める。
　　ソテツの枝は、4月11日（金）岩本邸（了承済み）で採集予定（山本氏他）
　　枝は約200本作成を目標とする。
　・受難の朗読は、司会・朗読者・神父がそれぞれの朗読台を使って行う。
　・聖木曜日：説教の後、12名の洗足式を行う。準備と人選は次回までに。
　・聖週間の聖歌練習を2月16日(日)以降ミサ後、掃除の前に10分弱(1～2曲)行う。
　　練習する曲は事前に選定する。
　・4月6日(日)ミサ後、受難の朗読(受難の主日、聖金)予行練習をする。(神父、司会と朗読者)
　・復活徹夜祭の水の祝福で、聖水を信徒に配布する（小容器200本とラベル用意）
3．典礼委員会日時について
　第2土曜日夜ミサ後、20時から開始：日時変更のため事前連絡の必要あり。

次回委員会予定

2013年度第7回典礼委員会：4月12日（第2土曜日）　信徒会館（週報でお知らせ）

パウロの歩いた道　　№２

パウロはどんな人だったのでしょうか。使徒言行録や書簡に断片的に自己紹介の形であちこちに書いてありますが、少しまとめてみました。

※パウロの故郷　キリキア州のタルソ

パウロ家はタルソの町に住んでいる、ユダヤから離散した(ディアスポラといいます)ユダヤ人でした。**フィリピへの手紙(3 章 5 節)**にはこのように書いてあります。

「わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員・・」

タルソスの町は海沿いにあり、東西は海に沿っての街道があり、北はアナトリア高原の入り口であるキリキアの関門を経てガラテアへの道が開けています。そのため古くから交通の要所として栄えてきました。その上、**タルソスの住民にはローマの市民権が与えられていました。**そのためパウロもローマの市民権を持っていたのです。パウロは捉えられた千人隊長から**「あなたはローマ帝国の市民なのか。わたしに言いなさい」(使 22 章 27)**と聞かれて**「わたしは生まれながらローマ帝国の市民です」(使 22 章 28)**と答えています。この時代はローマ帝国が急激に発展し、二代目の皇帝ティベリウスの権威が強い頃でした。そのため地方の軍隊の長でもローマ市民を勝手に裁くことはできませんでした。そのためパウロはローマへ送られることになったのです。これがパウロの四回目の旅、ローマへの旅でした。

※パウロ家の職業

パウロの家は天幕作りを生業としていました。そしてかなり裕福な一族であったのではないかと言われています。わたしがいろいろ話を聞いた、ヘブライ大学で聖書を学んだ友人は、「パウロは旅に出るときにタルソスの実家に寄って資金をもらって行っていたと思います。」と言っていました。

パウロは回心した後、しばらく故郷に帰っていましたが、バルナバが呼びに来るまで、実家で天幕つくりを学んでいたと思います。なぜなら、かれは各地で働いて生活の糧を得ていたのです。**「ご存じのとおり、わたしはこの手で、わたし自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです」(使 20 章 34 節)**

※パウロは秀才だったのではないか

タルソスで生まれたパウロは、何歳からか分かりませんが、エルサレムへ留学しています。**「わたしはキリキア州のタルソスで生まれたユダヤ人です。そして、この都で育ち、ガマリエルのもとで先祖の律法について厳しい教育を受け、今日の皆さんと同じように、熱心に神に仕えていました」(使 22 章 3 節)**

若いころから都へ留学するということはタルソスでは一番の秀才だったのではないかと思うのです。

典礼を学ぶ集いより（ミサ聖祭）　『ミサの全体的な構造』

ミサの全体的な構造は、開祭の儀＝ことばの典礼＝感謝の典礼＝閉祭の儀から構成されますが、ミサの構造には、イエス・キリストの生涯、イスラエル人の過ぎ越しの食事の構造、シナイ山での契約の締結の構造との類似性等が挙げられ、ミサ理解の助けとなります。

以下では、まず①イエス・キリストの生涯とミサの流れとの類似性を簡単に表にまとめ、次に、②イスラエル人の過ぎ越しの食事の構造（それはまた、最後の晩餐の構造でもある）とミサの類似性を、見てゆきます。

ここで、①は、約３０年のイエスの生涯を約１時間のミサの流れに対比するもの、②はイエスの生涯に含まれる最後の晩餐（１時間に満たない？）を、やはり約１時間のミサの流れに対比するもので、両者の時間幅は大違いですが、興味深いものがあります。（編者注釈）

①ミサの流れとイエス・キリストの生涯との対比

〈ミサの一般的な構造〉	〈イエス・キリストの生涯〉
(O) 準備	ナザレでの生活
(a) 開祭	ヨルダン川での洗礼
(b) ことばの典礼	宣教生活
(c) 感謝の典礼	最後の晩餐、　十字架上での死、　復活
(d) 閉祭	昇天（弟子たちの派遣）

次回には過越の食事とミサの流れとの関連等を詳しく見ていきます。

教 会 学 校 の ペ ー ジ

１月２６日

〇豊田神学生の送別会

みんなで寄せ書きをした色紙を渡しました。

２月９日

〇地の塩・世の光として生きるために、日々の生活をどのように過ごしたら良いかを、勉強しました。

〇成松リーダーがイスラエル・エジプトを旅行されたときの、ご自分の体験を写真と共に、話してくれました。

また、死海･エジプトにまつわる聖書の中の出来事を説明してくれました。

〇「ごらんよ空の鳥」を歌いました。

★特別献金★

〇1月26日　児童福祉の日献金
　　３０，２００円
　ご協力、ありがとうございました。

★救援募金★

フィリピン台風救援募金
　　４８，５８２円
　ご協力、ありがとうございました。

★灰の水曜日　ミサ★

日　時：3月5日(水)
　午前9時30分～、午後7時30分～
　※この日は、大斎・小斎です

★黙想会★

日　時：3月15日(土)
　　午前10時～12時
　　午後7時～9時
　　16日(日)
　　午前9時30分～12時
指導司祭：白浜 満神父(神学院院長)

★共同回心式★

日　時：3月28日(金)
　・午前10時～・午後7時30分～

今月の聖人

7日　聖ペルペトゥア殉教者／聖フェリチタス殉教者　?～203年

ローマ皇帝のキリスト教迫害下に、北アフリカのカルタゴで５人のキリスト教志願者が捕えられました。その中に２人の女性、ペルペトゥアとフェリチタスがいました。

貴族出身のペルペトゥアは乳飲み子がいる22歳の婦人であり、フェリチタスも妊娠中の奴隷でした。５人をキリスト教に導いた宣教師サトルスも、後から捕えられました。５人の求道者は監禁されている間に洗礼を受け、すぐに投獄されました。

ペルペトゥアは、棄教するようにとの父親からの説得を拒み、牢獄を宮殿と書き残しています。裁判の結果、全員に死刑の判決が下され、猛獣の餌食となる刑を受け、殉教しました。

ペルペトゥアの殉教録は、3～4 世紀のキリスト者の殉教観を見る上で貴重な資料となっており、古代・中世をとおして影響を与えました。